

(注意：本研究の報道解禁日時は 9 月 19 日 5pm (ET) (日本時間 20 日午前 6 時) です)

ビールに含まれる成分が筋肉の萎縮を抑える

農研機構生研センターイノベーション基礎研究事業「筋肉老化を防ぐ抗ユビキチン化ペプチドおよびフラボノイドの開発」(代表者：寺尾純二)の成果として、ビールに含まれるプレニル化フラボノイドが寝たきりの原因とされる廃用性筋萎縮を抑えることをオンラインの米国科学雑誌に発表しました。

(報道概要)

平成 20 年度から 5 年間、徳島大学は農研機構生研センターイノベーション基礎研究事業「筋肉老化を防ぐ抗ユビキチン化ペプチドおよびフラボノイドの開発」を実施してきた。その間、ダイズペプチドやタマネギケルセチンに抗筋萎縮作用がみられることを報告してきたが、今回ビールに含まれるプレニル化フラボノイドが動物実験において強い抗筋萎縮作用を発揮することを発見した。その作用発現にはプレニル化による標的組織への蓄積量の増大および植物エストロゲン活性が関係することが示された。実験に用いた 8-プレニルナリンゲニン[®]はホップ含有成分であり、ビール製造工程でも生成する。すなわち、ビールに含まれる機能性物質である。今回の動物実験結果をそのままヒトに当てはめると、抗筋萎縮効果を期待するには毎日数 10 から数万リットルのビールの消費が必要になり、現実的ではない。しかしヒトにおいて長期間にわたる習慣的なビールの摂取を続けることにより、筋肉老化防止の効果への期待がもたれた。筋肉老化防止を対象とする機能性食品開発への応用をめざす。

本研究はオンラインの米国科学ジャーナルプロスワン (PLoS ONE) に 9 月 19 日 5pm (ET) (日本時間 20 日午前 6 時) に掲載予定です。本研究の報道は、上記日時まで厳しく禁止されていますので、解禁前に報道することがないよう十分にご注意願います。

お問い合わせ先

部局名 HBS 研究部 食品機能学分野

責任者 寺尾純二

担当者 同上

電話番号 088-633-7087

メールアドレス terao@nutr.med.tokushima-u.ac.jp